

2型糖尿病患者の低血糖入院減らすヒント導く 社会人大学院生の医療ビッグデータ研究が日本糖尿病学会賞

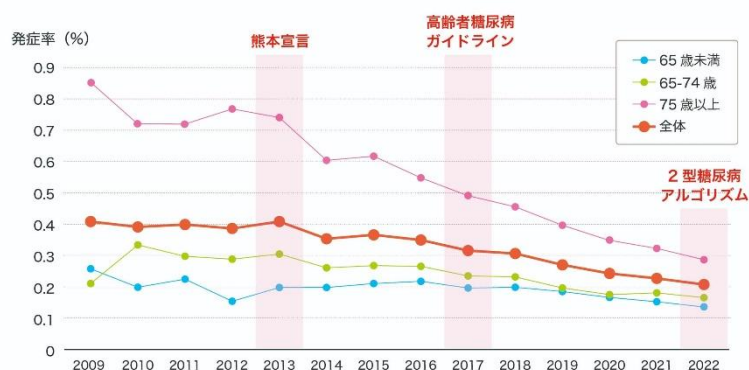
武蔵野大学（東京都西東京市、学長：西野聖子）薬学部臨床薬学センターの堀井剛史講師の指導の下、社会人大学院生の影山美穂氏らによる医療ビッグデータ研究で、2型糖尿病患者の低血糖による入院が漸減傾向であることなどが分かりました。この研究は一般社団法人日本糖尿病学会の第9回医療スタッフ優秀演題賞を受賞しました。

医療ビッグデータは、メディカル・データ・ビジョン株式会社（同千代田区、代表取締役社長：岩崎博之、以下MDV）の国内最大規模の診療データベース（実患者数5,237万人、2025年5月末日）を活用しました。影山氏は薬剤師で、東京薬科大学薬学部実務実習教育センターの講師を務める傍ら、武蔵野大学薬学部臨床薬学センターで社会人大学院生として研究を続けています。この研究は2009年1月1日から2022年12月31日までの診療データから、2型糖尿病かつ、低血糖と診断された患者を対象に、入院加療が必要な低血糖の発症リスクを検討しました。

この研究が日本糖尿病学会の医療スタッフ優秀演題賞を受賞したことについて、影山氏の指導教官にあたる堀井氏は、「MDVのDPCデータに含まれる、入院時の詳細な情報があつてこそ成立した研究で、他のデータベースを使った研究とは異なる視点が評価されたものと考えています。さまざまな臨床視点の疑問解決を可能にするMDVデータの拡張性の高さやデータの網羅性といったものを、この研究を通じて実感しました」とコメントしています。

研究の結果、下のグラフのように2013年に日本糖尿病学会が血糖管理目標値HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）を7%未満とする目標を設定した、いわゆる「熊本宣言」、さらには、同学会が高齢者糖尿病診療ガイドラインを2017年に改訂したことが、ゲームチェンジャー（状況を一変させるきっかけ）となり、低血糖発症率が大きく減少したことが確認できました。また新規の血糖降下薬の登場も影響しているとみられるとしています。このほか、低血糖入院患者は75歳以上が6割近くを占めていました。

2 型糖尿病患者の入院を必要とする低血糖症発症率の年代別推移



肥満度を表す国際的な指標であるBMI（Body Mass Index）と低血糖入院についての関係は、過去のほかの研究では、低血糖入院がない群と比べるとBMI18.5未満（＝低体重）の人の割合が高くなっています。そこで、この研究でもその割合を算出したところ16.7%となり、ほかの研究と同じように高い傾向であることが分かりました。



影山氏のコメント

「薬剤師として、患者さんに薬局窓口で低血糖予防や低血糖対策の意義を説明します。ただ、予防活動に対する結果は見えにくいものです。この研究を通じて日本糖尿病学会の取り組みなどを医療ビッグデータ分析で可視化することができました。また薬を安全に活用するには、その使い方が大事であると改めて感じました」

＜本件に関するお問い合わせ先＞
メディカル・データ・ビジョン株式会社
広報：君塚・赤羽・汲田
MAIL：pr@mdv.co.jp